

長岡市子育て世帯の生活に関する調査 結果（速報版）から見えてきた課題

調査の目的及び概要

支援を必要とする子どもや親に優先的に施策を講じ、より効果的な施策を検討することを目的とし、子育て世帯の日頃の暮らしや子育ての悩みなどについてアンケート調査を実施しました。

本調査は、長岡市在住の18歳未満の子どもがいる世帯4,000世帯を無作為抽出し、郵送アンケートにより実施し、そのうち回答の得られた2,103世帯（回収率52.6%）について集計しました。（調査期間：平成30年8月7日～8月20日）

なお、今後詳細な分析を行い、子どもの貧困対策に関連した計画の策定及び支援施策についての検討を継続していきます。

長岡市の「子どもの貧困率（相当値）※」・・・14.1%（7人に1人）

参考：国の子どもの貧困率（平成28年）13.9%

長岡市の就学援助割合（平成29年度）13.9%

※「子どもの貧困率」：経済的に厳しい家庭（一般的とされる水準の半分以下の水準）で育つ18歳未満の子どもの割合。厚生労働省が「国民生活基礎調査」において、3年に1度公表しているもの。

本調査では、国の子どもの貧困率に準じて、世帯人数ごとの経済的に厳しいとされる年収額（例：3人世帯の場合、世帯年収242万円程度）を算出し、それを下回る世帯（いわゆる「貧困層世帯」）を「区分1」、上回る世帯を「区分2」に分類しています。

本調査の速報結果を受け、見えてきた取り組むべき課題

○子どもの孤食への対策

○学習支援への取組みの充実

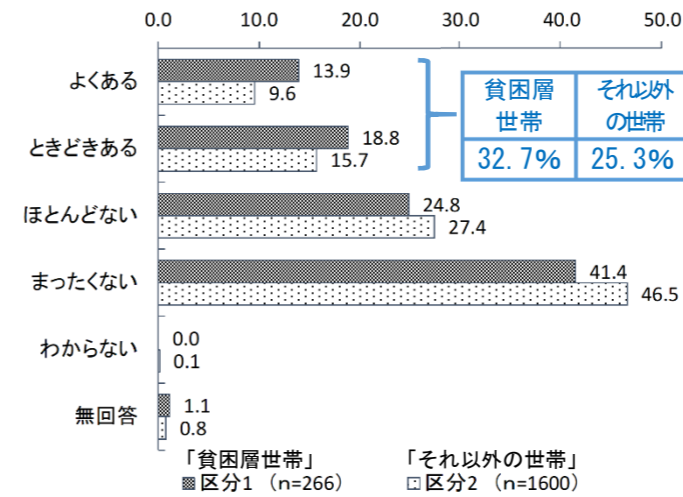
～結果の概要（抜粋）～

（1）孤食の状況

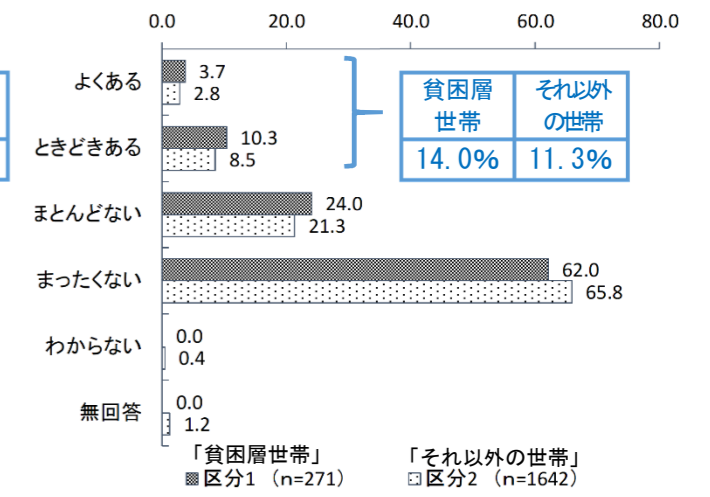
子どもだけで朝食を食べることが「よくある」「ときどきある」と回答した世帯の割合は、いわゆる「貧困層世帯」は32.7%、それ以外の世帯は25.3%でした。また、夕食では、同様にそれぞれ14.0%、11.3%であり、ひとりで食事をとっている子どもが経済的状況に関わらず一定数いることが確認できました。

核家族化や共働きなどで家族みんなで食事をするのが難しい家庭が増えている中、様々な年代の人と関わり、みんなで食事をするができる場所や機会を増やしていく取組みが必要であると考えられます。

○お子さんがひとりで朝食を食べることの有無



○お子さんがひとりで夕食を食べることの有無



（2）子どもへの支出状況等

子どもへの支出等については、「している」と答えた項目のうち、お誕生日のお祝いをするや、医者に行くなどは、全世帯で高い割合になっています。一方、「経済的にできない」と答えた割合は、総じて貧困層世帯が高くなっており、特に、有料の学習塾や習い事への支出は難しいことが伺えます。

様々な体験学習を含む学習支援の取組みの充実が必要であると考えられます。

